

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	東海市立あすなろ学園			
○保護者評価実施期間	2025年1月14日 ～ 2025年1月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数)	15
○従業者評価実施期間	2025年1月14日 ～ 2025年1月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月21日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・発達支援を多職種（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・保育士・看護師）で行っているため、様々な障害に対応できる。また、様々な側面から子どもの発達をとらえることにより、子ども理解が深まる。	・専門的な見解を含めた発達状況の把握や個々の情報など、支援者間で共有し子ども理解や支援方法に活かしている。	・担当者会議や情報共有の時間の確保。
2	・給食時に理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が摂食評価を行い、一人一人に応じた食形態、食具、姿勢保持のための椅子の提案をしている。	・児の様子をよく観察し、保護者の聞き取りからの情報も含めて、摂食評価をする。 ・食形態、および食具の決定は、看護師を含めた複数の職員で決定する。	・摂食評価の内容について、食事介助を行う職員で共有し、定期的に振り返りを実施することにより、常に児にあった食事形態が提供できるようにする。
3	・肢体不自由及び、身体発達の遅れがある児への支援が充実している。	・子どもたちが自ら、動きたくなるような環境の工夫。 ・相手に合わせて身体を動かすことができるよう、毎日「リズム」を実施している。 ・集団保育、生活の場での姿勢保持や動線について、専門職からの助言をもらう。	・リズムでの支援方法や肢体不自由児への適切な支援の方法について、経験値の高い職員が支援場面に入り助言する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・親子通園日の出席率の減少。	・保護者に親子通園の負担感がある。 ・親子療育の重要性、メリットの伝達不足。 ・兄弟児の預かりがない。	・保護者にとって通園したくなる、親子通園での支援内容の充実及び、保護者交流の実施。 ・託児場所、保育士の確保。
2			
3			